



紅型(日本民藝館)



木喰作地藏菩薩像(日本民藝館)

縄文、わび茶、円空、

眼の革命

発見された日本美術

木喰、蕭白、民芸、そして超芸術トマソン。

2001年10月2日(火)~11月18日(日)

開館時間=午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)

休館日=10月9日(火)と毎週月曜日
(10月15日、22日、29日、11月5日、12日)

入館料=一般300円(240円)/小中学生100円(80円)

※()内は10名以上の団体料金/65歳以上の方及び障害者の方は無料

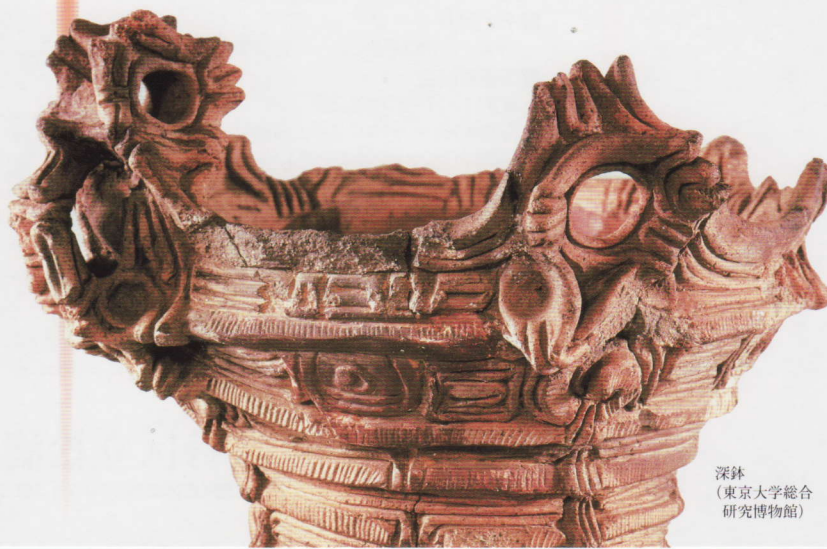
※第2・第4土曜日は小中学生無料

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL03-3465-9421



蕭白筆群仙図屏風
(文化庁)



深鉢
(東京大学総合
研究博物館)

眼の革命

発見された日本美術

様々な教育を受けた現代人にとって、まったくの無垢な眼でものを見ることは不可能に近いでしょう。通常我々は眼にフィルターをつけてものを見ています。そして既成のフィルターは、既成の価値しか透過しないのです。

フィルターをいったんはずして見る、あるいは新たな価値を映し出すまったく別なフィルターにつけ替えて見る。そのような新しいものの見方によって、それまでまったく顧みられなかったものが、突然アートとして立ち現れてくることがありました。“眼の革命”による新たな美の発見です。

* *

かつての日本美術史の概説書は、宮廷貴族や上級武士などの支配階級の庇護のもとに作られた、洗練された作品によって占められていました。オーソドックスな枠からはみ出すあくの強い造形や、民衆のための素朴な造形がいつの時代にも存在していたはずですが、明治時代に確立する美術史学においてはそれらは切り捨てられ、西洋にも誇りうる上品で技術的に高いレベルにある作品のみが対象とされたのです。

しかしその後の長い年月の中で、枠からはみ出す個性的な造形も次第に美術として認知されるようになっていきます。例えば縄文土器に現代に通ずるパワーを見出したり(岡本太郎)、東北や沖縄などの周縁が育んだ民衆的な工芸品の美しさに気づくこと(柳宗悦)がありました。円空や木喰をはじめとする近世の造仏僧の素朴な仏像や、禅僧白隠の気迫あふれる書画の魅力も、大正時代以降にクローズアップされたものです。蕭白や若冲に代表される奇矯で幻想的なイメージを描き出した近世画家の再評価(辻惟雄)や、不動産に付着したまま美しく保存されている無用の長物に、超芸術トマソンを発見した近年の例(赤瀬川原平)も加えられるでしょう。現代の展覧会や美術書は、明治時代のそれよりはるかに広い領域をカバーしており、日本美術史は徐々にその対象を広げているのです。

そうした新たな領域の獲得には、既成の観念にとらわれぬ、新たな価値観の導入が必要でした。今日我々が享受する日本美術の豊かな表情のいくつかは、先人の“眼の革命”によって獲得されたものなのです。この展覧会ではその発見史をたどりながら、発見者たちの眼の革命を検証します。

■講演会

10月27日(土)午後2時～
「岡本太郎の日本発見」
講師 山下裕二(明治学院大学教授)

■ギャラリートーク

11月1日(木)午後2時～ 担当学芸員 矢島新

■美術映画会

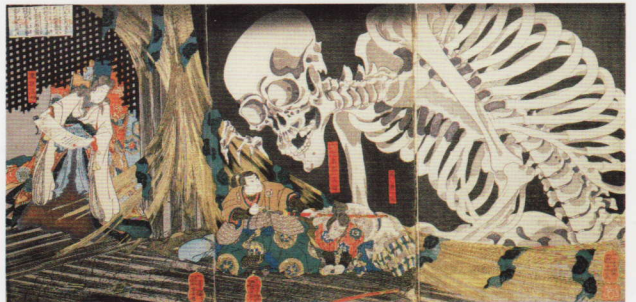
10月13日(土)午後2時～3時
「日本の美シリーズ 水平と垂直」
「画家カラヴァッジオの犯罪I 一殺人の果ての写実性」
11月3日(土)午後2時～3時
「日本の美シリーズ もう一つの日本美」
「画家カラヴァッジオの犯罪II ーシチリア・マルタ島への逃避行ー」

■美術相談

10月7日(日)午後2時～4時
講師 油彩 内山懋、版画 林美紀子
11月11日(日)午後2時～4時
講師 油彩 佐久間公憲、水彩 水野道子



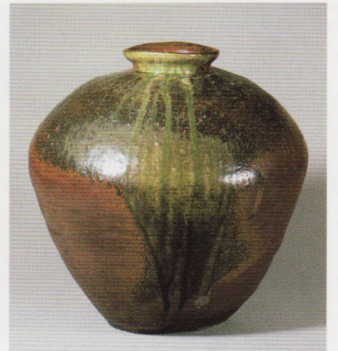
円空作不動三尊像(清滝寺)



国芳筆祖馬の古内裏



李朝秋草文面取壺(日本民藝館)



自然釉丹波大壺(日本民藝館)



案内図:JR渋谷駅下車徒歩15分
京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分



井戸茶碗(細見美術館)

渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL03-3465-9421